

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第54号 2012年3月

発行人：大野 利幸 編集長：地田 博昌 事務局長：小杉 哲
事務局：〒152-0023 目黒区八雲4-9-14 Tel 090-7825-6270

2012年 新年会を開催

2012年の目黒稲門会新年会が、1月15日(日)目黒雅叙園シリウスの間にて開催されました。会場には、来賓、会員、ご家族など84名が集われ、過去最多の参加を得た昨年に匹敵する盛大な新年会になりました。

石川智子幹事の司会で開会が告げられ、早速第1部「新春講演会」に入りました。今回の講師は目黒区の小学校を卒業され、現在北京大学客員教授、工学院大学孔子学院学院長の西園寺一晃氏で、演題は「バブルの崩壊はあるか—転機に立つ中国経済」でした。司会の講師紹介に続いて約1時間の講演が行われました。

(講演要旨) 結論から言うと、今は大都市、特に沿海ベルト地帯の不動産バブルが経済を引っ張っている。しかし中国全体から見ると不動産バブルは一部であり、バブルが崩壊すれば影響は大きい、それで中国経済全体が潰れると言うことはない。

中国には、都市と農村と言う2つの世界が存在し、更に、厳しい時代を知っている世代と豊かさしか知らない2つの世代が存在する。中国の成長は70年代末から始まった。当時、鄧小平は2段階成長戦略として、まず沿海ベルト地帯に重点的に投資し、その後内陸部に成長を拡大する方針をとった。競争原理を導入し、力ある者がどんどん豊かになれるようにした。高度成長を実現した原因は4つあり、①欲望の解放による購買力の爆発 ②政府の意欲的公共投資 ③輸出振興政策 ④外資導入政策である。

70年代から購買力の爆発による内需型成長が始まり、80年代には衣食革命、90年代は家電革命が起こった。ところが90年代終わりごろから内需が低迷、高度成長下のデフレという現象が現れた。沿海都市部では、衣食、家電などの飽和状態が起き、一方内陸部農村は貧しく、購買力も低かった。つまり、中国の成長は外需型に転換した。輸出、外資導入、固定資産投資が成長をけん引し、中国は世界の工場になり、大量の外貨を生み出して、世界一の外貨保有国



となった。

都市住民の所得は増えたが、福祉の遅れから将来に対する不安も出て、人々は貯蓄に励んだ。

新しい消費分野が生まれなかったため、内需が低迷し、高度成長下のデフレ現象が生まれたわけである。

しかし、2005年くらいからデフレ現象は消え、内需が蘇った。車、住宅、観光、教育への新しい消費が起きた。2008年のリーマンショックは、素早い対応で乗り越え、世界で一番早く危機から脱した。

不動産バブルが崩壊したらマイナスになることは間違いない。他に格差や環境問題も蓄積されている。

今最大の問題は、産業構造の転換、内陸部農村住民の所得向上を実現することだ。持続的な成長をするためには、内陸部農村の内需を喚起し内需型成長に転換する必要がある。しかし将来、農村が豊かになると人件費は高くなり、外資が入って来なくなる。転換期の当面の問題は金融政策で、食料品等の値上がり防止のため金融引き締めか、企業の為の緩和か激論がある。現在は物価も落ち着く傾向にあり、金融を徐々に緩和する方向に舵を切りつつある。

いずれにしても、中国経済は今後若干成長のスピードは鈍るかも知れないが、破綻することはない。

一党独裁は経済の成長が続く限り、当面潰れない。GDPの国民1人当たりの平均が1万ドルを超える2030年頃が転機となる可能性がある。

☆☆☆

休憩をはさんで第2部「懇親会」に移り、大野利幸会長が主催者挨拶として新年を祝いました。

(挨拶要旨) 参加者に新年のお祝いを申し上げ、お忙しい中、出席して頂いた講師、来賓に感謝する。

目黒稲門会は13年目を迎える。会の活動状況をお話して挨拶とする。

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第53号 2011年12月

発行人：大野 利幸 編集長：地田 博昌 事務局長：小杉 哲
事務局：〒152-0023 目黒区八雲4-9-14 Tel 090-7825-6270

2012年 新年会のご案内

2012年新年会を1月15日(日)目黒雅叙園にて、下記の通り開催致します。

毎年恒例の第一部講演会では、中国研究者として知られる西園寺一晃(さいおんじ かずてる)氏をお招きしました。躍進めざましい中国経済について、豊富な経験と研究成果をもとに、今後の可能性を探る興味深い講演になることと存じます。マスコミの表面に出ないお話にも期待したいと思います。

西園寺氏は、目黒区立菅刈小学校出身で、現在祐天寺在住。村上副事務局長のご紹介で、ご快諾を頂きました。

年の初めの出発に、稲門の友と酒を酌み交わし、経済談義、ゴルフ談議に花を咲かせてはいかがでしょうか。大自然の脅威に対し、「絆」という言葉が注目されています。先輩後輩、ともに校旗を囲んで稲門の「絆」を確認し、声高らかに「都の西北」を斉唱したいと存じます。初めてご参加の方、久方ぶりの方、いつもお越しの皆様、心よりお待ちしております。

記

- 日時：2012年1月15日(日)16時開会
(受付開始 15時30分)
- 会場：目黒雅叙園(3F シリウスの間)
〒153-0064
東京都目黒区下目黒1-8-1
電話：03-3491-4111
JR目黒駅西口、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線目黒駅から行人坂を下って3分、(権之助坂を下って5分)
- 講演会：16時～17時
講師：西園寺一晃氏
演題：『バブルの崩壊はあるか—転機に立つ中国経済』
- 懇親会：17時～19時

5. 会費：会員10,000円、ご家族5,000円
当日会場受付にてお支払い下さい。

6. 目黒駅よりの無料バスはありません。帰りの目黒駅行き無料バスはありますので現地で時間をご確認下さい。

7. 同封の返信用はがきを12月17日(土)までにご返送下さい。

講師のプロフィール



西園寺一晃氏

1942年東京生まれ。明治の元勳・首相・枢密院議長・西園寺公望の曾孫。1955年目黒区立菅刈小学校卒。1958年から一家で中国に移住し、10年間北京滞在。1966年北京大學経済学部卒、朝日新聞社入社。日中関係の調査研究にあたる。定年後、北京大學日本研究センター在外研究員。北京大學客員教授。伝媒大學客員教授。北京城市大學客員教授。工学院大學客員教授。工学院大學孔子學院院長。東京都日中友好協会常務副会長。研究者、フリーランスジャーナリスト。

中国滞在中に文化大革命がおこり、帰国後、『青春の北京』(1971年、中央公論社)を執筆。他に著書多数。

(田島 記)